

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23 年 2 月 28 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3474800376		
法人名	社会福祉法人 優輝福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 グループホーム みら屋		
所在地	広島県三次市三良坂町三良坂1789番地の2 (電話) 0824-44-3008		
自己評価作成日	平成23年2月28日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	<a href="http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3474800376&amp;SCD=320">http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3474800376&amp;SCD=320</a>
------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成23年3月18日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ご利用者様本位の個別ケアと、五感に積極的に働きかける取り組みをベースに、ご利用者様のパートナーとして「一緒に大笑い・楽しい一日ありがとう」を合言葉に、町の中の普通の家を目指しています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<ul style="list-style-type: none"><li>・全職員は常に理念に立ち返り、お互いが協働しながら入居者の方々に、安心感とゆとりあるケアを提供できるように努めている。また、何がその人らしいのかを日々考えながら、コミュニケーションを大切にし、入居者にもできるかぎり役割を担ってもらい生活にメリハリが得られるよう、支援に取り組んでいる。</li><li>・常日頃から、管理者と職員は認知症の改善や現状維持に心を配っており、入居者のその人らしい尊厳ある姿を大切にし、一人ひとりの権利を保障し、人格を尊重することを基本としている。全職員の思いや、優しさは、本人の安心を確保されており、日常生活の中で会話と笑顔が多く見られる。</li><li>・四季折々の自然の中で、環境を楽しむように散歩等を行いながら、近隣とも親しい関係を構築し、理解と支援が得られている。また、結婚、出産しても働き続けられる職場環境が整っているため、職員の定着度が高い事も良質な支援の提供を可能としている。</li></ul>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域の住民の思いを含めた開設当初からの理念を、毎年事業計画やパンフレットにも掲載し、少しでも実現出来るようにと取り組んでいる。日常の場合、申し送り、事業所会議等を通じて話をしながら取り組んでいる。	地域(町)でホームでの支援を最大限に活かすことを理念としており、管理者と職員は共に具体化に取り組んでいる。また、全職員は日々入居者に関わる際に、理念を意識し、入居者本位の生活支援の実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩や散髪に出かけた時、声をかけたりしている。地域の行事(お祭りやとんど、運動会等)に参加したり、中学校の職場体験実習を受け入れている。	地域に根づいた伝統的な行事を大切に、入居者と職員が共に参加して楽しんだり、少しでもホームの存在と意義等を理解してもらえるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	取り組んでいるが、あまり積極的ではない		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者からの意見や思いも、会議の中で述べていただき、サービス向上にいかしている。	会議では参加者との活発な意見交換が行われ、会議をとおして、地域との交流を深めたり、入居者のサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	要介護認定更新時等、市役所(支所)に行った際、担当課や担当者と話をすることがある。	市担当職員には運営推進会議の参加時に、ホームの現状や課題等を把握してもらっている。他には、電話や要介護認定更新時等の機会を通じて、制度上の相談等を随時行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b></p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>事業所会議等で話し合いながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は出来るだけ開放している。玄関の戸に開けたら音がするようにしたり、職員が目配り、気配りをしよう心がけている。</p>	<p>職員は勉強会等で身体拘束に該当する行為や防止方法について学んでおり、意識が高く、安全に配慮しながら見守りによる身体拘束の無い支援に取り組んでいる。日中は玄関への施錠は行わず、庭へは自由に出られるようになっている。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b></p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>法人内の研修や外部の研修等で学び、また、事業所会議、申し送り等で、勉強会を開催している。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b></p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>法人内の研修や外部の研修等で学ぶようにしているが、まだまだ不十分である。</p>		
9		<p><b>○契約に関する説明と納得</b></p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約書、重要事項説明書に明記し、入居時に説明し同意を得ている。</p>		
10	6	<p><b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b></p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議に利用者の代表として出席して意見を述べてもらったり、日常の場合でも耳を傾けるよう努力している。また、法人全体の取り組みとして、アンケートを実施し、結果を職員会議で話し合ったりしている。定期的に連絡をしたり、来所時には日々の様子を伝えたりしている。</p>	<p>入居者の意見を第一と考え、日頃の関わりの中で不満や苦情など率直な気持ちで言えるように努め、家族にも来訪時や電話の際などに気軽に意見や要望を言ってもらい、運営推進会議での家族の意見も運営に反映させている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>年2回の人事考課を実施し、個人懇談を行い職員の思いや意見を聞ける様にしている。また、日々の申し送りや事業所会議等でも意見交換している。</p>	<p>代表者は職員の意見を聞く機会を定期的に設け議論を行い、管理者はミーティングや日々の業務の中で出た意見を取り上げ、職員間で十分話し合い調整しながら、運営に反映させている。このことは、職員の働く意欲の向上と質の確保につながっている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>法人全体で人事考課制度を導入し、年2回行っており、個々の努力や実績が反映される様に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>必要に応じて外部の研修に参加している。法人全体で研修体系があり、新人研修、現任者研修など研修の機会を確保している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>認知症実践者研修の実習の受け入れを行い、職員が同業者と交流する機会をもっている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前から本人と事前面接を行ったり、入居後も新しい環境に慣れて頂けるように、声かけをしたり、傾聴に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前から本人と事前面接を行ったり、電話で状況を確認したり、入居後も新しい環境に慣れていただけるよう、声かけや状況報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現在の状況や本人、家族の思いを聞き、状況に応じて他のサービス機関と連携をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「一緒に大笑い、楽しい一日ありがとう」をモットーに昔ながらの調理法を教えていただいたり、昔話を聞いたり、歌を習ったり、一緒に過ごす時間を大切にしている。また、口腔ケア、洗顔時に鏡を見て、一緒に笑えるよう日々を過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居中の本人の様子をお話したり、定期的に入居中の様子を手紙で伝えている。あるいは、入居前の様子を伺ったりしながら、本人が安心して生活していただけるように協力し合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出や外泊の支援をしている。	知人、友人、親戚、家族等がいつでも自由に面会しやすい雰囲気ができている。家族との外出や、外泊の支援、馴染の場所との関係を継続させるための支援も積極的につくっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者の間に職員が入ってコミュニケーションをとりやすくしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	状況に応じて家族へ連絡したり、他機関との連携をはかるようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の事前面接や、入居後もこれまでの生活歴を尋ねたりしながら、本人のこれまでの暮らし方が継続できるよう努めている。	ホームを第二の家と考えて頂けるよう、コミュニケーションを大切にし、本人の思いや意向の把握をしている。困難な場合は家族や職員間でよく話し合い、本人の思いを大切にしながら、反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の事前面接や、入居後もこれまでの生活歴を尋ねたりしながら、本人のこれまでの暮らし方が継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の申し送りや記録等を通じて現状を把握し、安心して過ごしていただけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	一人一人の入居者に担当の職員を付け、介護支援専門員とその職員が中心となってアセスメントも行い、具体的な計画を作成している。	チームで作上げる介護計画を目指し、担当制を採用しており、職員は本人の言葉や訴え、また家族の面会時での会話の中から計画作りに反映するように心がけている。細かい部分の介護については、敏速な伝達と申し送り、伝達ノートにより統一性をもたせている。	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	個別記録に日々の状態を、具体的にわかりやすく記録するように努めている。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	法人内の他のサービスも紹介したり、利用したりしながら、本人らしい生活ができるように努めている。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	必要に応じて協力しながら支援を行っているが、まだまだ不十分である。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	近隣にかかりつけ医（週1回往診あり）があり、また希望に応じて他の医療機関でも診療を受けられるよう支援している。	本人及び家族の希望を踏まえ、かかりつけ医に継続して受診できるように支援し、新たに受診する場合も、必ず説明し納得して頂いてから受診の支援を行っている。身体の状態や受診結果、服薬等については、職員は家族と情報を共有しながら、適切な医療を受けられるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職員の中に看護師を配慮し、日常の健康管理が行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態に応じて家族、医療機関と相談を行いながら支援している。入院中も、様子伺いに訪問するなどして情報が共有できるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に本人や家族の意向を確認し、状況に応じて話し合い、相談をしている。状況に応じてかかりつけ医等と相談しながら支援している。	看取りに関する指針を設け、母体組織や併設事業所及び協力医療機関との連携により、本人や家族の要望にできるかぎり添えるよう取り組んでいる。看取りにおいても、本人の状態やホームでの対応範囲等を医師とも相談しながら、最善の支援方法により対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	法人全体の研修の中で、定期的に救急救命講習を受講したり、職員会議でもその都度、看護師が指導したりしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回避難訓練を行っているが、十分ではない。	定期的に火災・防災訓練を実施している。消防署への連絡、初期消火、避難訓練等の体制もきめ細かく策定し、職員の意識も高く、近隣の協力も得られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	できる限り利用者の方の目線にたって言葉かけや対応をするようにしている。記録等も利用者の目の届かない所へ保管している。	全職員は、常日頃から尊厳を損なわず親しみのある言葉掛けを心がけ、人権意識を徹底し、支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員が選択するのではなく、利用者を選択していただく場面を作ったり、「○○してくださいませんか？」と依頼する、言葉かけする等、自分で決めて暮らせるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人一人のペースで生活できるように、支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の希望を聞きながら、馴染みの理美容院へ出かけられたりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜の下ごしらえ等を一緒に行っても良かったり、職員も一緒にテーブルにつき食事を楽しんでいる。また、つくしを取ったり、手巻きずしを巻く等、季節を感じてもらえるよう心がけている。	入居者の希望や季節感を取り入れた食事を、入居者一人ひとりの力を発揮していただきながら、職員と共に調理等を行っている。買い物・後片付け等も一人ひとりに合わせて行い、食事も楽しみながら一緒に食べており、楽しい時間となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事はホームで手作りしており，一人一人の状態に応じた調理方法で提供している。水分も3度の食事以外にも摂取していただけるよう声掛けをしている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の歯磨きの声かけ，介助を行っている。定期的に義歯をポリデント洗浄したり，必要に応じて歯科受診している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄確認票を作成し，排泄の声掛けや介助，失禁等の対応では，本人が不安を感じないように，また他の利用者に配慮しながら行っている。	個別の排泄パターンの把握に努め，声かけ・誘導を行い，トイレでの排泄を促している。また可能な限り，リハパン→布パンツ，パット使用→パットなしへの移行に努めている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	献立や，水分摂取にも気を配っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。	介助は衣類着脱から，洗身まで一人のスタッフが行う事で，機械的な流れにならないようにしている。必要時にはスタッフが二人介助に入り，安全に努めている。	清潔保持に気を配りつつも希望やタイミングを優先し，時間や順番は本人の希望に柔軟に合わせ，話しをしながらゆっくり入れるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	それぞれの居室でゆっくりやすんでいたたり、縁側や和室、食堂にソファを置き、ゆったり座れる空間作りに取り組んでいる。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人一人の服薬に関して、用法、用量、目的、副作用がわかる表を作成し、周知を図り確実に服用出来るよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事や庭の草取り等手伝ってもらっている。季節感のあるお手伝い（栗の皮むきや柏餅作り）も楽しんでもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	身体機能の低下、状態の悪化の方が多く、散歩が難しくなりつつある。天気の良い日は、庭で日光浴するなど戸外へ出る事が出来る様努めている。	本人の状態や習慣、有する力、希望、季節や地域のその時々の状況に応じて、一人ひとりが外出を楽しめる支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の希望に応じて金銭を所持していたいており、外出時等お金が使えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をかけたいという希望があればかけてもらい、可能な利用者には、年賀状を書いてもらったりしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関周りの建物が民家を移築した物となっており、鉢植えを並べたり、木の温もりのある表札をかけたたりしている。玄関や共用の和室が昔ながらの民家を移築した物となっており、懐かしい雰囲気がある。	共用空間は、清掃が行き届き、温度や換気も適切に管理されている。季節感や生活感をうまく活かした居心地のよいリビングでは、入居者が各々ソファ等で思い思いに過ごされている姿が多く見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファやベンチ、椅子等を共用空間や廊下等に置き、自分の好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時家族に働きかけ、使い慣れた家具や生活用品を持ち込んで頂き、その人らしい部屋作りに取り組んでいる。	居室は、本人や家族が自由に馴染の物等が置けるようになっており、好きなものや落ち着くものを身近に置いて、個性的で居心地良い居室をつくりあげている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各要所へ手すりを設置し、玄関には椅子を置いて靴を安全にはいたりできるよう工夫している。 手作りの日替わりカレンダーを食堂に貼ったり、居室入口にはそれぞれの花を飾ったり、トイレには大きく赤字で「便所」と表示している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームみら屋

作成日 平成23年3月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		地域との交流に努めているが、まだまだ不十分で日常的な交流には至っていない	利用者と共に地域貢献出来る機会を積極的につくる	1. コミュニティセンターの掃除や空き缶拾いに御利用者と一緒に参加する 2. 地域の住民と一緒に出来る行事を計画する	1 年
2	18	本人と共に過ごし合える関係 職員は本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築くように取り組んでいるが十分ではない	「一緒に大笑い楽しい一日ありがとう」が、日々の暮らしの中で具体的に取るようにプランを立てる	1. 個々のプランに、本人の役割や楽しみ事を具体的に明文化する 2. 職員会議やケース会議などを通して職員間の意識を高める	1 年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。